

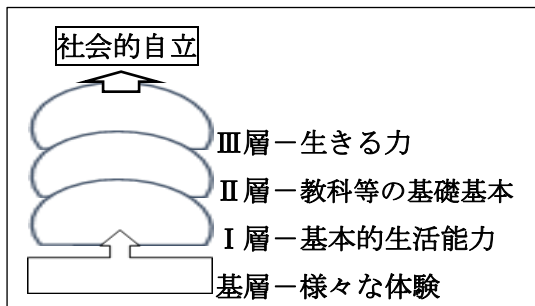
「重ね餅的学力観」

校長 齋藤幸之介

私事で大変恐縮です。先日、私の大学時代の指導教官であられた児島邦宏という方が亡くなりました。不肖の学生であった私に多くのことを御教授くださいましたが、特に私の中に深く刻まれているのは「重ね餅的学力」です。

「重ね餅的学力」

児島先生は、正月に飾られる「お供え餅」をイメージされて子供たちが身に付けるべき力を3層で表していらっしゃいます。



1 III層「生きる力」

児島先生も尽力されて20年ほど前に学校教育に新しく位置付いた総合的な学習の時間は、社会に出て自立する際に求められる「生きる力」を育成されることが究極のねらいとされます。自ら課題を解決し、最終的には積極的に社会に参画しようとする態度を養うための学習活動が求められます。

2 II層「教科等の基礎・基本」

しかし、総合的な学習の時間を充実したものにするには、ここで活用する力を身に付けておかなければなりません。児島先生曰く「鬼退治に素手で立ち向かう」ことにならないように、各教科や特別の教科 道徳、特別活動などで知識や技能、考える力・表現する力などを身に付けておく必要がある、ということになります。

3 I層「基本的な生活能力」

II層を習得させるには、さらに基礎となること、例えば、読み・書き・計算や基本的な生活習慣、体力など、日常生活を送る上でも必要な手段などを身に付けておく必要がある、ということです。

児島先生は、この3層を支える自然、社会、生活などの様々な体験も必要であり、これを「基層」、と位置付けられています。

私が述べるまでもありませんが、子供たちに生きる力を身に付けさせるためには、それぞれの層のつながりを意識するべき、と捉えることが肝要となりましょう。また同時に、子供たちの力は「直線的に飛翔するのではなく」、「行きつ戻りつしながら」全体として前に進む、という児島先生の御言葉も忘れずにいたいと思います。

児島先生のお教えと

例えば「コミュニティ・スクール」と私は改めて児島先生のお教えを振り返り、先生のお考えは、例えば本年度より本校がコミュニティ・スクールになったことに大いに関連している、と捉えています。学校が一つの主体として子供たちが社会的自立をするために教育活動を推進していく一方で、地域の方々には例えば様々な体験を設定する際に御協力をいただき、そして保護者の方々にはあるときには家庭学習、またあるときには総合的な学習の時間に大いに関わっていただくなどの御協力をお願いする、ということとなりましょう。

皆様はいかががお考えになるでしょうか。

<参考>

児島邦宏『確かな力をはぐくむ学校力 “学校再生”の方略と具体的方策』(2007年 ぎょうせい)

児島邦宏『日本の学校を観る 子どもをあなどることなかれ』(2016年 教育出版)

御礼

年度当初の保護者会で、皆様に登校時刻についての御配慮をお願いしたところ、大いに改善が図られ、以前にも増して一層安全な始業を迎えられるようになりました。ここに御礼を申し上げるとともに、今後共御理解と御協力を賜りたく存じます。

(生活指導主任 橋本陽子)